

GSEF (グローバル社会的経済協議体) 2023 アフリカ・ダカール大会に向けて



3・11関西プレフォーラム開催

【報告】 斎藤日出治 (大阪労働学校・アンシエ工長)

二〇二四年にソウルでスタートしたグローバル社会的連帯経済フォーラム (GSEF) は、五月にアフリカのダカールで六回目の大会を開催します。それに先立って関西でプレフォーラムが行われました。

主催したのは、近畿労働者協同組合と大阪労働学校・アンシエです。前者は昨年、労働者協同組合の施行にもなっており、後者は二〇一六年に開学され、産別労働組合運動と中小企業の事業協同組合運動との連携を追求する学校です。この二つの機関が、社会的連帯経済のグローバルな発展をめざす協議体に参加することを通じて、危機に瀕した日本資本主義のオルタナティブな社会経済システムに向けた社会運動を前進させようとしたのです。

冒頭あいさつに立った武建一労働局長は「イギリス、スペイン、フランス、韓国などの協同組合運動の歴史を学びつつ、この国でも労働者がみずから事業を起し責任ある企業作りを取り組み、産業と社会を担う労働者を育てること、これが労働者協同組合を発展させるカギだ」と力強く訴えました。

続いてアフリカのダカール大会に参加予定の「社会的連帯経済を推進する会」の若森賢司代表から、集団的・持続可能な地域経済を創造する「ダカール・フォーラム」のテーマと日本から報告する3つの取組について紹介。

最後に、大阪労働学校・アンシエの講師津田直則さんからダカール大会の意義について、自身の社会的連帯経済に関するライフワークに関する講演が行われました。

津田さんは、営利や競争を原理とする資本主義システムが人間性と地球環境に深い危機を引き起こしている現状を批判され、そのオルタナティブとして連帯を原理とする社会経済システムを提言され、その具体的な方策として、株式会社の労働者協同組合への転換、協同組合の拡充と国際ネットワークの発展、社会的連帯経済研究に取り組む研究グループの推進などを訴えられました。

【別掲資料】

人間らしい働き方と持続可能経済のための公共政策 ブルーエコノミー (海洋経済) とグリーン経済への関心



テーマ / 若者と女性のためのディーセント・ジョブ (人間らしい働き方) 協働的で持続可能な経済のための公共政策の共同構築

SSEは、発展途上国でも先進国でも、地域開発を行う効果的かつ協働的な方法として広く認識されるようになってきている。

では、どのように課題や問題を特定し、公共政策のための条件と機会を作り出し、私たちの地域のための協働的で持続可能な経済に貢献したらいいのかな？

インフォーマル経済から、若者や女性のためのディーセント・ジョブを創出する協働的で持続可能な経済への移行は、どのように進めたらいいのかな？

地域に密着した経済を促進し、包括的で持続可能な開発を実現するために、自治体やSSE関係者はどのような役割を果たすべきなのかを互いに実践から共有し構築する。

社会と環境の保護

漁業と石油・天然ガス関係者の利害が明らかに異なることを考慮し、漁業コミュニティ、影響を受ける沿岸の地方自治体、そして漁師たちは、漁業資源に大きく依存する人々のしなやかさやしびれを結果として強化するよう求められている。

持続可能な連帯のブルーエコノミーの包括的なガバナンスのため、包括的で持続可能な「若い成長」の観点から、観光、漁業、エネルギーが存在しない中で、グリーン経済、コミュニティの自給自足、地球の保全に共通する利益をどのように確保するのでしょうか？

グリーン経済に向けた変化の運用段階に移行することを最終的に可能にするのは、どのような制度的メカニズムなのかを考察する。

サフナーマ

2.1 / 伝統的漁業の保護

2.2 / 本統的新しい「青い仕事」の創出と環境保護

2.3 / ブルーエコノミー活動家たちにとっての社会保護制度

サフナーマ

3.1 / 生態系と共生する農業システム

3.2 / 食糧安全保障と主権

3.3 / グリーン経済、コミュニティの自給自足、環境保全のガバナンス



関西でも2023春闘始まる 『賃上げしかない！物価高と闘う23春闘集会』

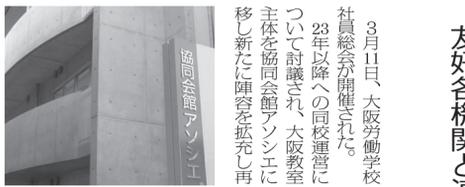
MU・KANSAI NEWS より

◆2月26日(日)午後2時からPLP会館で開催された、なかまユニオン主催の『賃上げしかない！物価高と闘う23春闘集会』に、コミュニティユニオン関西ネットワーク (CU 関西ネット) に結集する私たち管理職ユニオン・関西 (MU 関西) や他の友好労組の仲間も参加 (オンライン併用) して、いよいよ23春闘が開始されました。

各組合の取組み報告に先立ち、この日は龍谷大学の協田滋名教授が『ストライキで闘う世界の労働者』と題して講演され、欧米の労働者がストライキを構えて賃上げや待遇改善の要求をする様子の紹介と解説をして頂きました。

イギリスのブレグジット (EU離脱) は、労働者保護の規制が厳しいEUを出て、政府が労働組合の手足を縛ろうとする意図もあったのですが、それにも負けずに公共サービス部門の労働者が大規模なストライキで闘っています。労働組合をつくり難いと言われているアメリカでGAF Aの中からも結成 (2023.3.4 Vol.3) 加入が増えています。日本の労働者・組合もストライキで闘わなくては！というエールに満ちた講演でした。

MU関西からも、集会当日現在スト決行中の職場で職安法20条・34条を基にしてスト中の事業場の求人停止させる戦術について、皆さんと情報共有しました。集会の後にはJR天満駅前-天神橋筋商店街でティッシュ配布をして、労働組合に加入して賃上げを勝ち取ろうとアピールしました。MU関西の仲間の各職場でも春闘要求→団交の取組みが始まっています。申入れや社前行動、団交等はお互いに協力し合って活動を豊かに展開しましょう。



大阪教室を協同会館アンシエに移し再スタートへ 友好各機関と連携し協働講座など新たな陣容で

大阪労働学校 社員総会 / 3月11日

3月11日、大阪労働学校 社員総会が開催された。

23年以降の同校運営について討議され、大阪教室を協同会館アンシエに移し新たに陣容を拡充し再スタートを切る事が承認された。

■ 協働講座 アンシエは必要であれば、夜間、土日の仕事も可能である。

■ 夜間講座の必要のある労働者、若者が集まれる土日の企画も検討できる。

■ 本下武男講師と相談して、業種別・職種別研究会と連携して労働講座の開設も検討する。

■ グローバル・ジャスティス研究会、地域アンシエ研究会、唯物論研究会などと相談し、ジョイントの講座あるいは集会を検討する。

■ 協同会館の地域ネットワークも利用して、住民参加の企画も検討できたらよい。

■ 沖繩講座も準備を進める。なお、学校所在地を西宮学舎から協同会館アンシエ2階に移転登記する(26日)確認された。

